す。」と話します。

に作品を眺めます 仲間が作った作品がセンスよく並んでいの一角に設けられ、道子さんとサークルの「寺小屋」コーナーが自宅である寺沢書 「寺小屋」の活動が始まって六年目。 の「寺小屋」コーナーが自宅である寺沢書「寺沢の小さい部屋」から取ったという名 書店に来るお客さんたちも懐かしそう 洋服や

守沢書店の寺小屋コー ル手芸は、 りを楽しんでいます。 しながらできること、 年に一度の作品発表会などで広 現在は二十人の会員と週二回、 と始めたリサイク に集まり 店番

ットワークができたことは、大切な財産でた。趣味を通してたくさんの人たちとのネだ、趣味を通してたくさんの人たちとのネは公民館などで教えていたほどの腕前では公民館などで教えていたほどの腕前でクルでいろいろなことに挑戦したい。」とい 「続けられるものは続けながら、五年サイ

気になるためのお手伝いができます。「三本木はとても良い雰囲気のまち だと思います。これまでの自分のます。「三本木はとても良い雰囲気のまち 現在は、「地域づくり協議会の副会長も務め ればうれしい。こと話す道子さん。

なる伝統的工芸品や物産など、大崎市 自慢の逸品を毎月紹介していきます。 田尻地域発

The excellent piece of boast

当初は、 では一日三千個を作れるまでにやっとだった施設利用者も、今 て作り始めた「すずかけ餃子」。 施設のシンボルとして立ってい 気上昇中の「すずかけ餃子」です。 そこで作られている餃子が、 も人気があります。 注文を受けるほどになりま 域内だけでなく県内・外からも お歳暮やギフト用としても、 が広まり、 るところから、その名前をとっ も使われていて、子どもたちに より少しずつ「おい 地域の人たちの支えや理解に すずかけの木(プラタナス)が 市内の小学校の給食として 家庭用はもとより、 しい」と評判 地

います。

9

を

今はまだ直営店はありませ 将来的には自分たちで店を

授産施設「すずかけの里」。 尻地域の知的障害者通所 一日五百個を作るのが うです。 限定で販売して の味覚を取り入れたものも季節 どの種類があり、そのほかに旬 ほしい。」と施設長の佐々木さん この餃子づくりを通して学んで りたいことに挑戦する大切さを

現在は、

しそ・カレ

一・大葉な

くなってしまうおいしさです。口にいれるとついつい止まらなめ、あっさりしているので一つつけなくても十分に味が楽し きっかけで生まれるかも さんからのアイデアを参考に新 産物を使ったものや、 すずかけの里では、 あなたの くことも考 市民の皆 言が す



10個入り300円、16個入り500円。 保冷箱に入った20個入り700円と30 個入り 1,000 円もあります。リオーネ ふるかわ生鮮市場(出川)、安心市場さく



いしい餃子を作るため に、みんな一生懸命頑 張っています。

販売することが目標だそ 「施設利用者の皆さん

い目標を見つけ、

ct

📵 すずかけの里 🛭 🕿 39-0030 http://www.suzukakenosato.jp

子さん 協議会副会長 (三本木)

趣味を通して得た これまでの経験をもとに 地域をもっと元気にしたい







②たんすの奥に眠っていた古い着物が、 らしい人形なに生まれ変わります。③寺沢書店の 一角に設けられた「寺小屋」コーナー。たくさんの作 品が並びます。